

2025年2月7日
SOMPOひまわり生命保険株式会社

SAFE コンソーシアムアワード エイジフレンドリー部門ゴールド賞を初受賞

SOMPOひまわり生命保険株式会社（社長：大場 康弘、以下「当社」）は、2025年2月4日に開催された、厚生労働省主催の「SAFE アワード授賞式」において、エイジフレンドリー部門ゴールド賞（サービス産業分野）を受賞したことをお知らせします。

1. 「SAFE コンソーシアム」について

増加傾向にある労働災害（特に、日常生活でも発生しうる転倒や腰痛などの災害）の問題を自分ごととしてとらえ、顧客や消費者も含めたステークホルダー全員で解決を図っていくため、趣旨に賛同した企業、団体がコンソーシアムを構成し労働災害問題の協議や、加盟者間の取組の共有、マッチング、労働安全衛生に取り組む加盟メンバーの認知度向上などをサポートするため、2022年6月、厚生労働省により設立されました。当社は2023年から加盟しています。（SAFEとは「Safer Action For Employees」の頭文字）

※SAFE コンソーシアムホームページ <https://safeconsortium.mhlw.go.jp/>

2. 「SAFE コンソーシアムアワード」について

職場において実施している労働災害防止や安全・健康の増進のための取組事例を募集し、表彰することで、優良な取組を進める職場の「見える化」を図り、企業・労働者による更なる取組を促進することを目的として一般投票等にて部門別に表彰を行います。部門には、「安全な職場づくり部門」、「エイジフレンドリー部門」「企業等間連携部門」の3部門があり、一般投票の結果、当社は取組事例「社員の平均年齢上昇を見据えた安全衛生強化策の展開！（【別紙2】参照）」にて、特に高年齢労働者の労働災害防止に関する優れた取組を表彰する、「エイジフレンドリー部門」ゴールド賞（サービス産業分野）を初受賞しました。

3. 当社の取組み

当社社員の健康課題には「運動不足」があり、社員の平均年齢も上昇傾向であるため、職場で起こり得る転倒の防止や腰痛の予防の重要性が高まるなか、当社は積極的に安全衛生強化策を展開しています。

<主な取組み>

- ・筋力強化要素を取り入れ、高年齢層に多い転倒や腰痛の予防効果が期待できるオリジナル体操第二弾を制作
- ・転倒防止セミナーの継続開催
- ・「健康応援ミーティング※」でのロコモティブシンドローム予防

※毎月1回、全職場で実施している健康リテラシー向上を目的としたミーティング

4. 今後について

今後も、社員が健康でいきいきと長く活躍できるよう、社員の声を聞きながら、労働災害防止も含めた健康経営の推進に積極的に取り組み、「健康応援企業」として、安心・安全・健康な社会の実現に貢献してまいります。

以上

【別紙1】授賞式の様子



SOMPOひまわり生命保険 人財開発部健康経営グループ 課長 橋本 友紀

取組事例：社員の平均年齢上昇を見据えた安全衛生強化策の展開！

「オリジナル体操・第二弾」の制作

- ・以前より展開しているオリジナル体操「SOMPOひまわり体操」に加え、筋力強化要素を取り入れ、高年齢層に多い転倒や腰痛の予防効果が期待できる「SOMPOひまわり体操 UP BEAT STYLE」を制作
- ・短時間（3分間）で業務の合間に気軽に実践できる。
- ・転倒予防、腰痛予防・改善に加え、肩こり改善、介護予防（ロコモ/フレイル）、体幹強化、リフレッシュ、ストレス解消など、労働災害防止だけではなく収まらない様々な効果がある。
- ・テレワークやオフィス空間でも実施できるよう、座位バージョンも制作



体操（第二弾動画）



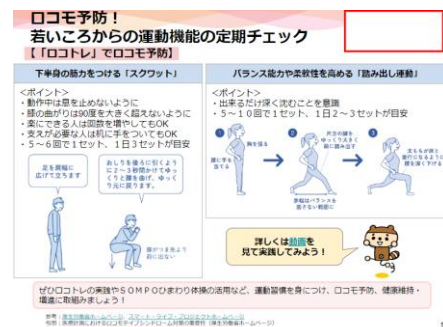
「転倒防止セミナー」の継続開催

「転倒」を防止・予防するための体づくり、腰痛等によるプレゼンティーズム低減を目的とした「転倒・腰痛予防セミナー」を2年連続で開催。労働災害の現状を学び、自身の状態をチェックしたうえで、予防のためのストレッチ&エクササイズを実践



「健康応援ミーティング※」でのロコモ予防

高年齢層はもちろん、若年代も含め運動機能の定期チェックを推奨し、厚生労働省スマート・ライフ・プロジェクトで紹介されている「ロコトレ」によるロコモ予防を実践 ※毎月1回、全職場で実施している健康をテーマとしたミーティング



実施効果

(定性) 「足腰が鍛えられた」「体力と集中力が向上した」「自身の運動不足に気づいた」「今後もストレッチを実践したい」などの社員の声が確認できた。

(定量) 従業員の運動習慣者比率*の上昇（社内アンケート）：36.3%（取組後：2024年8月）← 24.7%（取組前：2023年3月）

※運動習慣者比率：1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合